



The letter of
Shinseisakuza

kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・



新制作座だより

vol.13

2017 SUMMER

<http://www.shinseisakuza.com>



眞山青果 作・眞山美保 演出「名君行状記」 中村梅玉丈の楽屋にて

「歌舞伎観賞」

「明君行状記」の

思い出

―三月大歌舞伎―

3

月歌舞伎座で「明君行状記」が16年ぶりに上演されました。

中村梅玉丈の池田光政に今回初役で坂東亀三郎(現彦三郎)さんが、青地善左衛門を演じました。

「明君行状記」は、禁猟のお鷹場で狩りをする重罪を犯した上、役人を切り捨てた青地善左衛門が、明君ぶりに疑問を抱き自らの一命を賭して光政の真実の姿を見たいと切望し頑なに意思を通そうとします。これに対して、父を亡くした善左衛門を幼いころから慈しんだ光政は、善左衛門を極刑から救おうとします。光政と善左衛門の台詞の応酬は、虚々実々。若さゆえに理を通して死罪を求める善左衛門を最後は光政が大人の愛情と知恵で救うという物語です。眞山青果の魅力あふれる台詞に酔い、初演から80年たっても古びない作品のテーマに改めて驚かされました。

舞台稽古を拝見に行き、歌舞伎座の客席で舞台の転換を待つ間、

「朗読 泥かぶら・八郎」

相互に磨き合う、朗読と演劇「泥かぶら」

朗読「泥かぶら」の公演が徐々に増えてきて、語りの勉強にも一層身が入ります！

朗読版は少人数のチームですが、演劇「泥かぶら」という代表作の縮小廉価版、という取り組みでは決してありません。約30分に凝縮された物語を、演劇とは違う形で届けるという難しさ、やり甲斐があります。

語りの大先輩である眞山蘭里代表に「内向きではなく、もっと大きな表現をしろ」とよくご指摘をいただきます。その度に「ドラマチックリーディング」と銘打っているのは、正にこの点が肝なのだと言われます。一般的な朗読や、絵本を我が子に語るのとは別の能力。俳優の、語る力が必要なのだ。

一人で物語を語るには作品全体の理解が要求され、演劇版での自身の学びにも繋がり、俳優として非常に有意義な勉強をさせていただいていることも実感しています。

演劇「泥かぶら」への観劇意欲を掻き立てることも目指し、今後

もチーム一丸となって朗読版の磨き上げに情熱を注ぎます。

(記・上杉綾)



朗読「八郎」
作：斎藤 隆介
画：滝平 二郎
語り：眞山 蘭里



朗読「泥かぶら」
原作：眞山 美保
文：くすのき しげのり
新制作座文芸部
絵：伊藤 秀男
語り：上杉 綾

「星槎国際高等学校」

八王子学習センター 教諭
弘田絢乃先生より

『泥かぶら』を鑑賞して

4月19日、新人生歓迎イベントとして劇団新制作座による

「泥かぶら」の公開舞台稽古を鑑賞させていただきました。

生徒も私もお話の流れとともに、少しずつ内容を理解していくことができ、時代は違っても共感できる場所が多くありました。『本当の美しさとは見た目だけではなく、心の中にある』と。

主人公の少女のように、周囲からの影響によって性格が荒れてしまうことがあり、一方で、登場人物である人買いのように、周囲からの影響によって心が改まることもある、ということを考えさせられました。また、どんなに苦しい状況であっても、自分の意志を強く持つて貫き通せば、決めたことを成し遂げることができる、ということを実感するいい機会となりました。

また、お話の内容だけでなく、舞台セットや小道具、音楽や舞台の転換が工夫されていて素晴らし

一つの情景を思い出しました。今から45年前の古い新橋演舞場の大食堂で「明君行状記」のお稽古が行われていました。池田光政は守田勘彌^{かんや}丈、青地善左衛門は片岡孝夫さん(現 仁左衛門丈)。演出席には、眞山美保先生と巖谷慎一さんが座っておられました。巖谷さんは、犬の鳴き声に注文を出しておられました。美保先生は、何度も椅子と机の席を離れ、孝夫さんの側に行っては一つ一つの演技に注文と演出の意図を伝え、先輩の勘彌丈に意見を聞きながらお稽古を進めていかれました。食堂に敷き詰められた定式の一歩前に正座して俳優の一言一句、一挙手一投足を見逃すまいと目を見開いていた美保先生の真剣な表情が私の目の奥に浮かびました。

今回、「新制作座だより」のために、梅玉丈の楽屋を訪ね、光政の扮装のままお写真を撮っていただきました。その折梅玉丈の「美保先生に観ていただきかった」と、しみじみと言われた言葉が、私の胸に響きました。そして、今回の舞台と共に新しい「明君行状記」の思い出が刻まれた瞬間でありました。

(記・眞山蘭里)

かったです。
次は舞台から近い席で、役者さんの表情を感じたいと思います。楽しい時間をありがとうございます。



公開舞台稽古を行った「星槎高尾ホール」

「泥かぶら」

再びの大阪

—大阪アンコール公演—

昨 年12年ぶりの大阪公演を終え、一週間ほどが過ぎた頃、この公演をご覧いただいた立正佼成会近畿支教区長の松本様から5月8・9日の両日、「泥かぶら」を大阪普門館で公演して欲しいとお話がありました。近畿地区11教会の主任800名の皆様へのプレゼント公演です。

この公演の決定で7日の一般公演が決まりました。12年振りどこ

ろか半年後のアンコール公演です。前回ご協力いただいた方々に今回も大変お世話になり、幕が開きました。

今回の公演で特筆すべきは教区長の発案でロビーにポプコーンと飲み物の売店ができたこと。ロビーには甘い香りが漂い、お客様も食べながらの観劇。我々にとつては初めての経験です。さて、どんな客席になるのか。幕が上がリ、物語の進行と共に客席と舞台が一つになつてゆくのが手に取るように分かります。日々の生活の中で苦勞多き人々の心が泥かぶらの成長と共に解放されていく様が舞台袖に居てもよく伝わってきました。



大阪普門館ホール

笑いあり、涙あり、お客様と共に創り上げた3日間は素晴らしい公演になりました。若い俳優にとっては得難い経験と学びとなった事でしょう。

飾り気のない大阪の人情が私は大好きです。また大阪に行けるのを楽しみに。I LOVE OSAKA!!

(記・山形久人)

「泥かぶら」

ただいま！五泉市

—新潟県五泉市公演—

い つも故郷に帰って来たような懐かしい気持ちになります。

季節は5月。田植えの風景、そして毎回楽しみにしている牡丹園。今年は満開のいい時に観られました。牡丹の花言葉は「風格、富貴」。どっしりとした大きな花に圧倒されました。

公演は市内の中学1年生が観劇、今年最初の体育館公演です。劇団の体育館仕込みはいろんな技術と経験があつて初めて成せる技です。

そして忘れてはならないのは劇団の古くからの友人との再会。畑さん、桐生さん、川瀬さん、高岡さん、

樋口さん。いつも温かく迎えていただいて本当に有難いです。45年ほど前から旧村松町(現在は五泉市)の青年団と劇団との繋がりがあり、何十回も観ていただいている方々ですので、緊張しつつも見守られている安心感があります。

開演一時間前に劇団の大先輩の関口さんと旧知の仲でお話しされている姿がほのほのと良い光景で、公演後には体育館の搬入口で「美しい五月のために」と「クンラポポロ」を皆さんに歌いました。若かりし頃の皆さんの姿が昨日のことにように思えます。

また来年…と、五泉の地を後にしました。(記・亀川忠助)



五泉市公演の舞台にて

「泥かぶら」

ドラマチックな繋がり

―山形県尾花沢市公演―

5月21日(日) 山形県尾花沢市にて「泥かぶら」の一般公演が催されました。昼と夜の2回公演。実行委員会の御尽力により

多くの方に足を運んでいただき、熱を帯びた素晴らしい客席を創っていただきました！心より感謝御礼申し上げます。

日本三雪。豪雪地帯の尾花沢もこの日だけは「雪とスイカと泥かぶら」である。

言うまでもなく演劇はドラマである。人がいて背景や関係性があり、言葉を紡ぎ出す。そしてその演劇が、公演という現実の形で実を結ぶ過程は…なんとまあドラマチックなんだろうと、今回改めて痛感したのである。半年前の尾花沢市内小学校の芸術鑑賞会が今回に繋がり、遡れば宮城県岩沼での復興支援公演であるという事。そこには必ず人がいるという事。

個人としては演技上達の野望を秘めながら、湘南茅ヶ崎の狭宅でボソボソ台詞を捏ねくりまわす日々だが、もうひとつのドラマ

を痛感するたびに、最近本番前に思うのである。「お客さんが観に来て良かったらって思ってた貫えるように全力を尽くそう」と。

帰路の車窓から雪の月山朝日岳を眺め、新鮮な空気を吸いながら明日も頑張ろうと思う。「真に泥かぶらは不思議なドラマだな」

(記：近衛謙)



田植えの季節 尾花沢の風景

―観客の声―



尾花沢公演実行委員会
高橋タキ子様より

きっかけは私の田舎煮弁当でした。8ヶ月前の10月1日の尾花沢市内小学校の芸術鑑賞会での授業の時に弁当を持って行き、その時に、終了近くの舞台を観せていただいたのです。

人買いの次郎兵衛に泥かぶら

が、身体の弱いもみじさんの代わり自分から買われて行く場面の中で、売られていくにもかかわらず次郎兵衛といえるのが楽しくて、楽しくて、にこにこ旅をしている事に、人買いの悪人極まりない次郎兵衛の「生れて初めて変な気持ちなんだ。この辺がどうもおかしいのよ」と心を絞り出すようなセリフ。その翌朝「仏のように美しい子」という手紙を大きな木に貼り残してなくなっていました。読み始めた泥かぶら「美しい子…泥かぶらとよばれた私が美しい？」水に映った顔をみて「これが私…おじいさんの言った三つの事がやつと分かった。こう言う事だったんだね。おじいさん」この泥かぶらの俳優さんの声のすばらしい事。未だに耳から離れません。

そして、劇団の宿泊が私の勤める「花笠高原荘」というラッキーな事も重なり「全部観たい、それもおばねで観たい」「真山理事になんぼだと来てくれっべ？おばねの市民みんな、3千円で観れるべか？」朝食中の真山理事は、力強く大きな声で「大丈夫、観れますよ」と言ってくださったのです。その足で友達片っ端から声をかけ、友達はその

友達に声をかけ「おばねで何十年振りの演劇を観っべ」と走り出したのです。

「泥かぶら尾花沢公演」実施に向けた実行委員会を12月の吹雪の日立ち上げたのです。そして5月の21日、2回公演、3千円で500人目標。この日のおばねは、田植えのど真ん中でした。「このくそいそがしいときに人集まっんべか、一週間ずらしたほうがええんねけが？」「チケット売れっべが、大丈夫だが」心配は尽きませんが、3月に、ポスター、チラシ、チケットを印刷し、5月まで2ヶ月です。

短期決戦でした。小津さんにも来ていただきました。チケットの売り方は「誰が頼まねで、実行委員会の手から手へ売るべなあ、協



左から、尾花沢市長の加藤国洋さん、高橋タキ子さん、老爺役 真山蘭里

力してもらおうべねあ」の約束で始めました。もちろん尾花沢市の後援もいただき、市長始め職員の方の協力もありがたい事でした。

公演当日みなでお客様を出迎えました。昼の部終了。「いやー、えがった。感動した。本物の演劇観せでもらった。ご苦勞様」夜の部終了に若い男性から「俺、感動して泣いだったわ」と、熟年女性「こんな風に生きらんね」と俳優さんと握手しました。みんなから「えがった、えがった」の声。私達実行委員の気持ちはこの「えがった」の一言に、公演をやり遂げた達成感でいっぱいです。

おばねの母ちゃん達の想いを心良く引き受けてくださった新制作座の皆様ありがとうございました。



「イベント」

老若肩を並べて 花の宴

— 新制作座の雛まつり —

「世の中に絶えて桜の無からまし」 古人が詠んだように今年の桜はなかなか開いてくれ

ませんでした。一喜一憂の日々を経て、ようやく八分咲きになった4月8日、恒例の新制作座春の宴が催されました。今年は3組のひな壇が舞台に並びました。正面に眞山家の明治雛、左右に星槎の大正、昭和雛。何れ劣らぬ凛とした美しさに息を呑みました。

劇団の新研究生2名と、新学期を迎えた星槎の寮生たちも参加して総勢32名、老若入り乱れた楽しい宴になりました。食後は若者中心にトランプ遊びの「大貧民」が始まり、ひとしきり若い歓声に湧きました。思えば何十年も昔、若き日の私たちが眞山美保先生の



ひな壇の前で

お部屋でこんな風に遊ばせていただいたことを思い出しました。「人と楽しく遊べる人間でなければ良い仕事は出来ない」生前、横村先生

新制作座 オリジナルグッズ 制作

「泥かぶら トートバッグ」

ある日の劇団全体打合せ。

何かオリジナルグッズを作りたいよね！と話が盛り上がり、大阪公演に向けて、実用的なトートバッグはどう？と、グッズ企画担当の福島里佳さんからの提案。

お！ここはわたしの出番かな？

普段、グラフィックデザインの仕事のかたわら、染色で「手ぬぐい」などの作品を作っているわたしは、演劇「泥かぶら」の舞台衣裳の文様をモチーフにデザインを提案。

無地のバッグを仕入れて、一枚一枚デザインをプリント。きれいに仕上げていく楽しい作業です。しっかりとしたキャンバス地で買物に便利な大きめサイズ。みな様に好評いただいています。(記：松原ふみこ)

「泥かぶらトートバッグ仕様」

サイズ：約幅36×高37×厚11cm
材質：綿100%キャンバス地 12オンス
エコマーク付 価格：1500円(税込)

がよく言われてましたっけ…。最後に皆で劇団の春の歌の数々を合唱して新年度の門出を祝いました。(記：福島まゆみ)



③乾燥後、アイロンの熱で定着させてできあがり！



②彫り終わった型紙に「紗」という細かな網を張り、顔料インクで一枚一枚刷っていく



①デザイン決定後、型紙を彫る。

「イベント」

幸せの国・不思議の国、 ブータン

ーブータンRTC（ロイヤル・ティンプー・カレッジ）からの留学生を迎えてー

ブータンの皆さんが今年もいらっしやいました。毎年の恒例になってから6回目。

一行の中で珍らしく男性は2人。従って日本文化の体験授業で着物を着られた時も、振袖姿が



ブータンからの留学生 和装体験授業にて

9人並び、とても綺麗でした。2人の男性の紋付袴はすぐに着付が済み、女性の着付の間、たつぷりとソーラン節の踊りを習得してまたねパーティでは、劇団員の男性達と競演出来る程の出来栄。

今年もまた考えました。どうしてこんなに心が通い合うのだろう、この着物の似合い方は何故なのだろうと。似通った所を探してみても一つですが、私にはそれ以上に心のやわらかさ、純粹さがその根本にあるように思えるのです。そして相手を認め好きになる心。たった8日間の滞在中、交流した時間は20時間にも満たないのに、別れの日、お互いに涙があふれるなんて考えてみれば不思議なこと。

ブータンは幸せの国。そして不思議の国でもあるのでは、と思います。行ってみたいな、ブータンへ。
(記・江崎はんな)

TOPICS

国際婦人デー ー中国大使館にてー

毎年3月、中国大使館にて大使婦人主催による国際婦人デーのパーティは、今年は偶然に

も3月3日のひな祭りと重なり、女性たちの活躍と平和への願いが、日中両国の参加者全体から強い連帯感となって会場を包み込んでいくようでした。

昨年12月、中華人民共和国の文化交流部より中国へご招待をいただいた、新制作座の劇団員6名は、初めて訪中した若手俳優を含むメンバーで参加し、多くの友人と語り合い、一緒に写真を撮り、名刺を交換し、これからも交流を深めていこう、私たちは家族なのだからと、約束を交わしました。男性たち？政治家に任せて置けないと、地球の半分を支える女性たち

「衣装部 朱鷺toki」

第1回 振袖内覧会

2017

ー6月25日「朱鷺の部屋」オープン！ー

豊

富な衣装を活用すべく、始動した「朱鷺」ですが、今まで口コミで劇団の魅力を知っているお客様にお貸し出ししてきました。

お客様をお迎えする部屋を作ったことにより、ご予約があればい

のパワーを応援し、元気付けてくれる新制作座でありたいと思う雛の夜でした。
(記・小津和知穂)



中国大使館にて

つでもご試着していただけます。

きものをまとった女性は、普段とは違った表情になりハッとさせられます。今回の内覧会で見えになった3名の女性も、そんなきものの魔法にかかったようでした。

自信を持ってお勧めできるきものがたくさんあり、見ているだけで惚れ惚れとした幸せな気持ちになります。これからの内覧会で、どんな方々や表情に出会えるか楽しみです。
(記・松原ふみこ)

劇団員の紹介 No.02

亀川 忠助

tadasuke kamekawa

このコーナーは、劇団員の活動秘話などをとりあげ、一人ずつご紹介します。



【プロフィール】

1996年入団、劇団の代表作「泥かぶら」では惣兵衛、三郎兵衛役を経て、現在は次郎兵衛を演じている。愛称は“かめちゃん”

【Q & A】

Q 亀川さんにとって新制作座とは？

A かけがえのない大事な劇団(難しいなあ。言葉ではなかなか言い表せないな～)

Q 入団当時の夢や志は？

A 当初は照明などの舞台設営に興味があり、プロの技術を学びたいと思った。

以前から眞山青果先生の実在は知っていて、雑誌に掲載されていた「新制作座の見学OK」の広告を見て行って見たら、とてもすごい劇団という事を初めて知りました。

俳優も担う事になったのは、眞山美保先生の“かめちゃん、俳優やりなさい”の鶴の一声で、新境地に立つ。

さして2度程話し、こんなに人の話を聞いてくれる人とは思ひ

もよらず、相手の話を引き出し、引き立ててくれる、その人柄に感動した。後にも先にもこのような人と出会う事はなく、美保先生と出会ってなかったら、俳優になっていないと思う。

Q 携わった作品の役柄や役割、印象に残るエピソードは？

A 現在の「泥かぶら」次郎兵衛役以外では、「新制作座フェスティバル」アメリカブロックのジョニー役、「万国旗の子」ではホテル経営者のヘンリー役。

初舞台の「新制作座フェスティバル 中国公演」で、緊張したことや経験が心に残っている。何より印象に残ることは、入団して眞山美保先生に出会えたこと。

舞台設営とトラックへの大道具積み込み、照明の一端を担っています。重い物や長い物の持ち方、ロープの結び方などの基本技能を学ばせてもらい、あらゆる場面で役に立っている。舞台設営での経験で、高いところに上がるのになれている(本当は苦手...)ので、劇団のある高尾キャンパスでは、柿の木やびわの木などの高木から果実を収穫するのが好きである。

Q 演劇「泥かぶら」で好きな場面は？

A 暗転前の「えいやーえい」の場面(すべてを解放された次郎兵衛が好き)。三郎兵衛とのやり取りで肌付け金を出すところ(自分の魂を出しているような不思議な感覚)。

Q 今後の夢や目標は？

A いい芝居をお客様に見てもらうこと。お客様の喜ぶ姿を見るのが一番のしあわせ。

劇団 新制作座 衣装部 [朱鷺 -toki-]

【振袖お貸し出し】

定期的開催している内覧会で、手に取ってご試着いただけます。「朱鷺 -toki-」のスタッフが"きものコーディネーター"をいたします。心ときめく作品をご自身の目でお選びください。(関連記事:8ページ(裏表紙)参照)

レンタル料金表 (※レンタル期間 5泊6日。送料込みの料金です)

● 成人式振袖 ●

成人式振袖レンタル一式 (内容:振袖・帯・半襟・伊達衿)

[特選] 150,000 円

[星] 85,000 円

[月] 60,000 円

[花] 25,000 円

※特選・星・月・花は、振袖のランクです。

レンタルセット例

[特選] 振袖 150,000 + 和装小物 15,000 = 165,000 円

[星] 振袖 85,000 + 和装小物 15,000 = 100,000 円

[月] 振袖 60,000 + 和装小物 15,000 = 75,000 円

[花] 振袖 25,000 + 和装小物 15,000 = 40,000 円

● 着付け ●

振袖 着付け 7,000 円

● 和装小物 ●

① 肌着上下

肌襦袢 (はだじゅばん)

御腰 (おこし)

② 足袋 (たび)

③ 草履 (ぞうり)

④ バッグ

⑤ 帯板 (おびいた)

⑥ 帯締 (おびじめ)

⑦ 帯揚 (おびあげ)

⑧ 長襦袢 (ながじゅばん)

⑨ 腰紐 (こしひも)

⑩ 伊達締め (だてじめ)

⑪ 衿芯 (えりしん)

⑫ 帯枕 (おびまくら)

... 2点セット 9,000 円

※①～②の、肌襦袢、御腰、足袋は買い取りとなります。

+

... 10点セット 6,000 円

||

◎和装小物セット (上記①～⑫) 12点セット 15,000 円

第一回 新制作座演出部 研修会

目的: 劇場以外の施設(体育館・公民館・チャペル・野外・コンサートホール等)で、演劇の上演を可能にする舞台設営の基礎～応用の技術を、舞台監督から実技を通して現場で学びます。

日時: 2017年8月14日(月)

9:30 新制作座 高尾ホール集合～16:00 終了

会場: 八王子市立城山中学校 体育館

募集: 10名(年齢・性別・国籍不問)

参加費用: 15,000円(全6回コース90,000円)

お申し込みお問い合わせ: 下記、NPO法人 劇団新制作座まで

「泥かぶら」一般公演開催のお知らせ

【星槎レイクアリーナ箱根公演】

日時: 2017年9月24日(日)

会場: 箱根町総合体育館「星槎レイクアリーナ箱根」

〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根 164-1

<http://hakone-lakearena.com>

【星槎国際高等学校・八王子学習センター 10周年記念公演】

日時: 2018年1月8日(月)

会場: 八王子市芸術文化会館「いちようホール」

〒192-0066 八王子市本町 24-1

<http://www.hachiojibunka.or.jp/icho/>

※各公演の開演時間・チケット料金などの詳細は、新制作座のWebサイト(<http://www.shinseisakuza.com>)に近日アップいたします。



緞帳柱を立てる



体育館での舞台設営



体育館の窓に暗幕を張る



大道具づくり 絵師さんと

劇団 新制作座 衣装部 [朱鷺 -toki-]

【振袖お貸し出しのお知らせ】

劇団新制作座では、国内外の公演活動で舞台衣装として活躍した「きもの」を、貸し出ししています。創立者で劇作家・演出家の眞山美保が選んだ日本の伝統芸術「きもの」の美しさをぜひ体験していただきたく思います。

【第3回 振袖内覧会2017】

「朱鷺の部屋」が6月にオープンし、定期的に内覧会を行っております。(参加費:無料)

- 日時: 7月22日(土) [1] 13:00～14:20
[2] 15:00～16:20
[3] 17:00～18:20
- 7月23日(日) [4] 10:00～11:20
[5] 13:00～14:20
[6] 15:00～16:20

- 会場: 劇団 新制作座「朱鷺の部屋」(下記住所)
- お申し込み方法: 上記[1]～[6]からご希望の日時を選び、下記のファックス番号かe-mailアドレス宛にお申し込みください。

ブログ「和装文化の朱鷺 -toki-」内の「振袖カタログ」にお貸し出しの振袖写真をアップしています。

「和装文化の朱鷺」で検索してご覧ください。
<http://ameblo.jp/wasoubuninkanotoki/>

※本誌7ページに「振袖レンタル料金表」を掲載しております。

【着付け教室】

稽古は、基本マンツーマンで行ないます。時間や曜日は要相談で受け付けております。

- ゆかた (1回3時間)7,500円
- 訪問着 (1回90分 全8回)30,000円
- 振袖・袴 (1回90分 全12回)45,000円

朱鷺 -toki- では、お稽古用の着物や小物を用意しています。手ぶらでお気軽にご参加ください。

お申し込みお問い合わせ:

下記、NPO法人 劇団新制作座まで

